

ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン
(ONE FOR ALL ALL FOR ONE)

ラグビーフットボールと言えば直ちに思い浮かぶのはラグビーのチームプレイ精神を表す時によく使われる「ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」のひと言に集約される組織理念である。「ひとりみんなのために」「みんなはひとりのために」、フランスの作家アレクサンドル・デュマの『ダルタニャン物語』『三銃士』の小説の中で、この言葉は有名になったようだ。そして、その精神が当てはまるラグビーでよく使われるようになったらしい。チームプレイの大切さを表す美しい言葉として、座右の銘としている経営者も多いだろう。特にラグビー指導者は少年から高校生ぐらいまでラグビー競技技術の指導と合わせてチームワークとして大切なこの言葉を引用しラグビー競技、チームを指導しています。

他の説もありそうである。“One for all” 「ひとりみんなのために」これは正しい。“All for one” 「みんなはひとりのために」とは訳さないそうです。ここで使われる One は Victory、つまり勝利を指しているようで、「みんなは勝利のために」と訳するのが正しいようで、「ひとりみんなのために、みんなは勝利のために」というのがもともと小説で使われていたときの訳だということです。確かに言われてみれば、チーム全員で弱った一人を助ける姿、確かに美しいですが、それでは外に向かって戦う『戦闘集団』にはなれません。ひとりひとりがチームのために動く。つまり個人が自分の足でグラウンドに立ち、任されたポジションをしっかりと固め、「チームの勝利に貢献する」という利他な強い思いがそこには必要です。そういうメンバーが結束すれば、その組織は真の勝利のために突き進む事が出来るでしょう。

チームに貢献できる自立した『個人』が結束し、勝利に向かって突き進む。自立した個人がお互いの弱点を補完することで1+1+1=4にも5にも6にもなる・・・

どんなに優秀な選手でも一人でできることには限界がある。これがチームプレイの素晴らしいところだ。しかし、それには前提条件がある。それは「一人ひとりが『自立』した大人である」ことが必要なのだ。

つまりは、一人ひとりがきちんと『勝利』に向かって自分の足で立っていること。チームの一員として他のメンバーに甘えたり、寄りかかったりしない、大人の集団であることが必須なのだ。そして「相乗効果」を発揮して「勝利」をつかむのだ。

最後に、チームの一員である以上、自分の責任を果たすことはもちろん、チームに貢献する責任も果たさなければなりません。チームは必ず助け合っている。自分も必ず助け合っている。自分も必ず助けられているのだ。ということをお忘れはならないと思う。

「ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」で目的や目標達成に向けて、子供から大人までこの精神を活かせたいと願う。